



な か は ら

学校教育目標：

心身ともに逞しく、主体的にねばり強く学び、思いやりのある児童の育成

文責 校長 池田 雄一郎

1年間の学習成果発表

～地域の人への感謝～

2月22日(木)あいにくの雨模様でしたが、4年ぶりに全校児童が一堂に会して学習発表会を行いました。学校教育目標にもあるように「逞しく」「ねばり強く」学んできたことを何百人の目の前で発表することができました。1年生から6年生まで自分の伝えたいことを、見ている人に伝えるために、大きな声とジェスチャーを交えながら発表しました。それぞれの学年の個性あふれる発表でした。また、今年から民生委員・児童委員の方や学校運営協議会の方、総合的な学習の時間でお世話になった方にも見てもらいました。「子どもたちから元気をもらった」という声が聴かれ、子どもたちも自分の発表に満足げな様子でした。



お別れ遠足 石水寺へ

3月1日(金)、雨も上がり、太陽が姿を現したこの日、6年生とのお別れのための行事、お別れ遠足を行いました。お日様の下で保護者の方の愛情たっぷりのお弁当をおいしそうに食べる子どもたちの様子が見られました。また、地域を歩くことで故郷の空気、匂いなどに直接触れることができ、大変有意義な行事となりました。



「努力の壺」 3月全校朝会より(令和6年3月11日(月))

今日は、13年前の3月11日東日本大震災が発生した日です。発生時刻に黙祷をお願いします。

さて、早いもので、もう一年が終わろうとしています。まずは、学習発表会、どの学年も身につけた力と鍛えた心を発揮してくれました。

残り10日を切りました。最後まで「時を守り、場を清め、礼を尽くす」を合い言葉にがんばりましょう。今日は一つだけお話をします。それは、「努力の壺」という話です。

目の前に大きな壺があります。最初のうちは水を入れても、水が増えた気配すら感じられません。どれくらい水がたまってか、見てみたくても、大きな壺なので見ることもできません。

人間には弱い心があります。途中で『自分には向いていないのではないか?』『どんなに努力しても、全然進歩がない!』『無駄な努力はやめてしまおう』と自分自身の努力に疑問を持つようになります。そして水を入れるのをやめてしまうのです。

強い心を持った人もいます。つまり、弱い心を克服できる人です。『自分にはできないのではないか?』という悪魔のささやきにも負けず、初心を貫く人です。毎日コップで水を入れてみると、ある時、水の音が変わってきたことに気づきます。水を入れたら『ポチャン!』と音がするからです。その音から確かに水がたまっていることを知ります。こうなるとコップで水を入れるのが楽しくて仕方ありません。今まで1日に1杯入れるのがやっとだったのに、『たまってきている』と実感できたことで2杯や3杯の努力を惜しみなくできるようになります。

ここまでくると、『努力』と思うのではなく、生活の一部として取り組むことができるようになります。そして壺から水があふれ出す時がくるのです。この時、努力の大切さと努力した喜びを感じるのです。

最後の最後まで校長先生は、一人一人ががんばっているか見に行きます。

美化作業お世話になりました

2月18日(日)、朝7時からPTAによる美化作業を行いました。卒業式を1ヶ月後に控え、窓拭きや校訓の色塗り、通学通路への砂利入れなど教育環境を整えていただきました。

特に、1年生教室横の通学通路は、雨が降るとぬかるみがひどく、靴は泥だらけの状態でした。しかし、今回砂利を入れたことで、水はけがよくなり、気持ちよく歩けるようになりました。学校に来る際にはぜひご覧いただければ幸いです。